ひきこもりに関する調査結果（甲府市）

令和３年１月２７日　甲府市福祉保健部

１　調査の目的及び手法

ひきこもりの背景や要因は多様であることや、ひきこもり当事者の生活を支えてきた親も高齢となり、病気や要介護状態をきっかけに一家が生活困窮に陥り社会的に孤立する、いわゆる「８０５０問題」等の新たな課題も表面化してきていることにより、社会全体での多面的・総合的なアプローチが必要となっていると考えられることから、今後のひきこもり当事者や家族への支援につなげるための基礎資料とすることを目的として、県と市が共同で本調査を実施することとした。

調査の手法は、県が実施した平成２７年度の調査と同様に、山梨県民生委員児童委員協議会及び甲府市民生委員児童委員協議会のご協力を得て、民生委員・児童委員の皆様が把握されている担当地区の情報（個別訪問や関係先等への照会は行わない）を調査票に記入してもらうこととした。

２　実施主体

山梨県及び甲府市

３　調査対象

この調査では、概ね15歳以上で、次に該当する者を「ひきこもりの状態にある者」とした。

（１）社会的参加（仕事・学校・家庭以外の人との交流など）ができない状態が６か月以上続いていて、自宅にひきこもっている状態の者

（２）社会的参加ができない状態が６か月以上続いているが、時々買い物などで外出することがある者

※ただし、重度の障害、疾病、高齢等で外出できない者を除く。

４　調査基準

令和２年９月現在

５　調査方法等

市内の民生委員・児童委員が、担当地区における、ひきこもり当事者等の情報を調査票に記入し、甲府市は調査票の配付及び取りまとめを行い、県が県全体の調査結果の集計・分析を行った。その結果を基に、甲府市が市全体の調査結果の集計・分析を行った。

６　調査票の回収数（回収率）

民生委員・児童委員３９５人に配付し、３１８人（８０．５％）から回収

７　調査結果

（１）　該当者数

〇本調査により把握できた該当者数は、１０３人。人口当たりの該当者の割合（出現率）は０．０６％となっている。

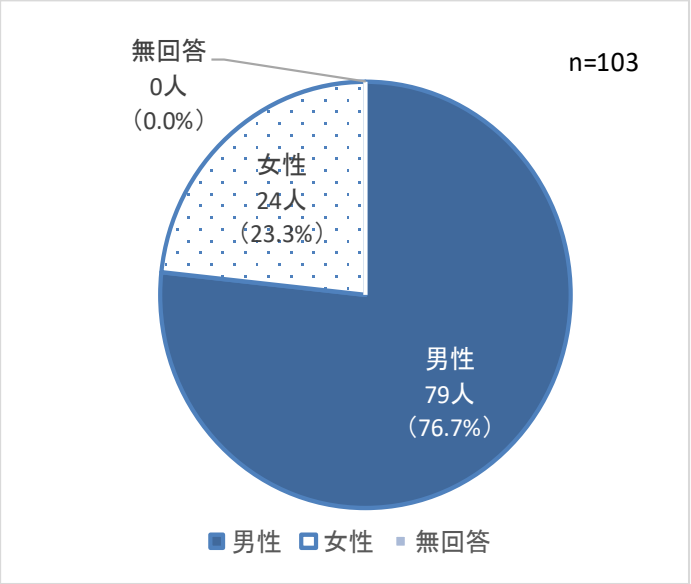
〇アンケート全数の回答があったものとして、上記の出現率により推計すると、該当者数は１２８人となる。

圏域	該当者数	15歳以上人口（A）	15歳以上人口に占める割合
甲府市	**103人**	166,115人	0.06%

（２）　該当者の性別

〇該当者の性別は、男性が７６．７％、女性が２３．３％となっており、男性が全体の３／４ほどを占めている。

性別	該当者数	割合
男性	**79人**	76.7%
女性	**24人**	23.3%
無回答	**0人**	0.0%
合計	**103人**	100.0%



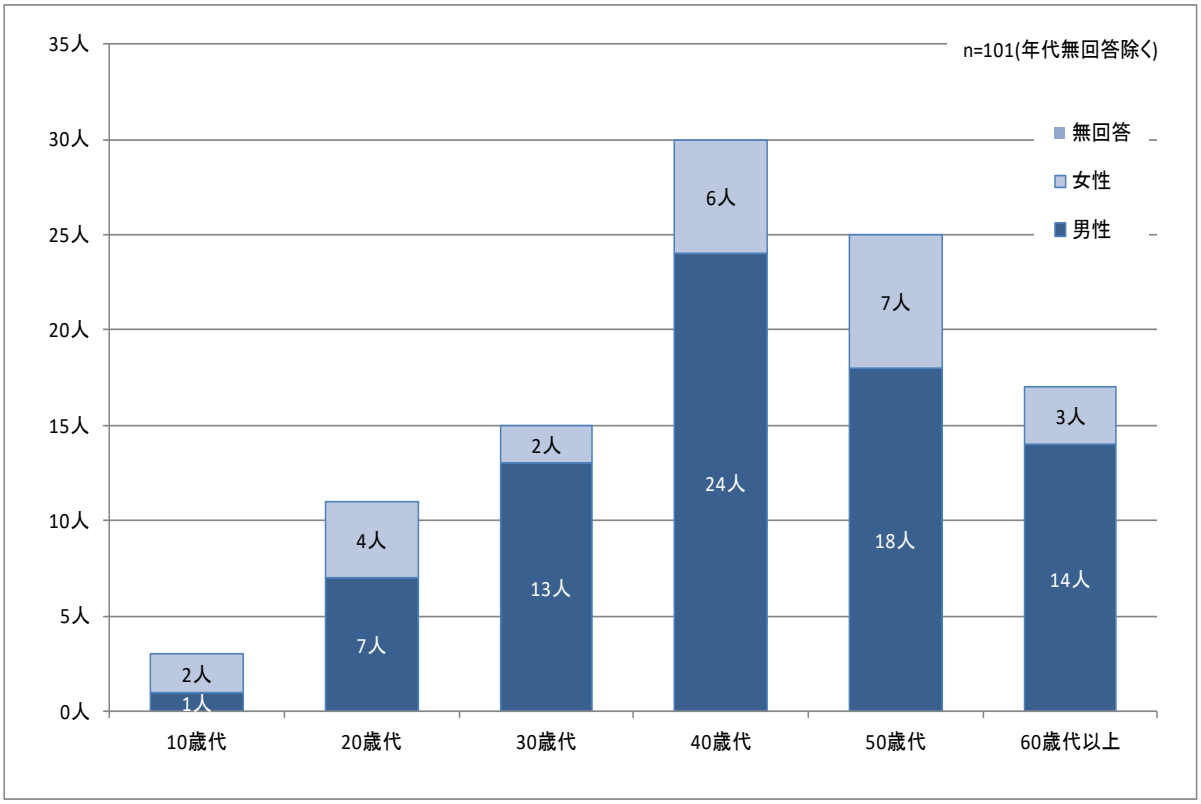
（３） 該当者の年代別性別状況

〇該当者は、４０歳代が最も多く、次いで、５０歳代、６０歳代以上となっている。

〇４０歳代以上が７２人と全体の約７割を占めている。

〇男性は、４０歳代が最も多く、次いで５０歳代、６０歳代以上の順となっている。
女性は、５０歳代が最も多く、次いで４０歳代、２０歳代の順となっている。

年代	男性	女性	小計	無回答	合計	年代別割合（年代無回答除く）	「40歳未満」「40歳以上」（年代無回答除く）	「40歳未満」「40歳以上」割合（年代無回答除く）	年代別出現率
10歳代	1人	2人	3人	0人	3人	3.0%			0.03%
20歳代	7人	4人	11人	0人	11人	10.9%	29人	28.7%	0.06%
30歳代	13人	2人	15人	0人	15人	14.9%			0.07%
40歳代	24人	6人	30人	0人	30人	29.7%			0.11%
50歳代	18人	7人	25人	0人	25人	24.8%	72人	71.3%	0.11%
60歳代以上	14人	3人	17人	0人	17人	16.8%			0.03%
小計	77人	24人	101人	0人	101人				
無回答	2人	0人	2人	0人	2人				
合計	79人	24人	103人	0人	103人		101人		0.06%

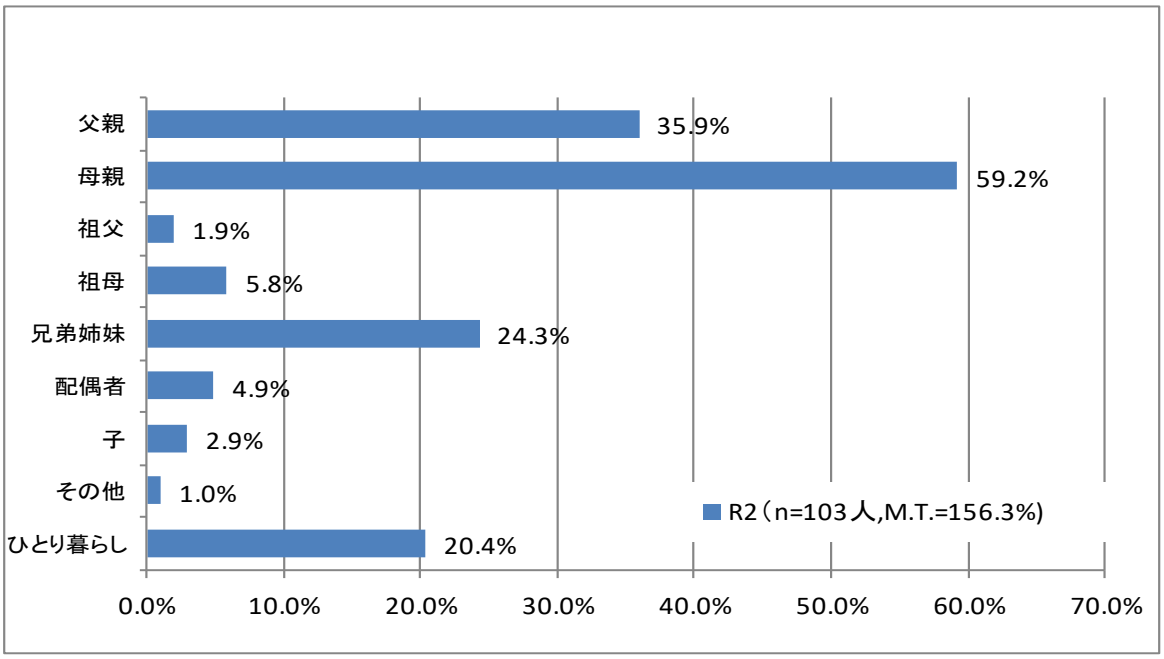


（４） 家族構成（複数回答可）

① 全体

○同居人としては、母が５９．２％（該当者１０３人に占める割合）と最も多く、次いで父、兄弟姉妹となっている。

○一方で、ひとり暮らしが、２０．４％となっている。

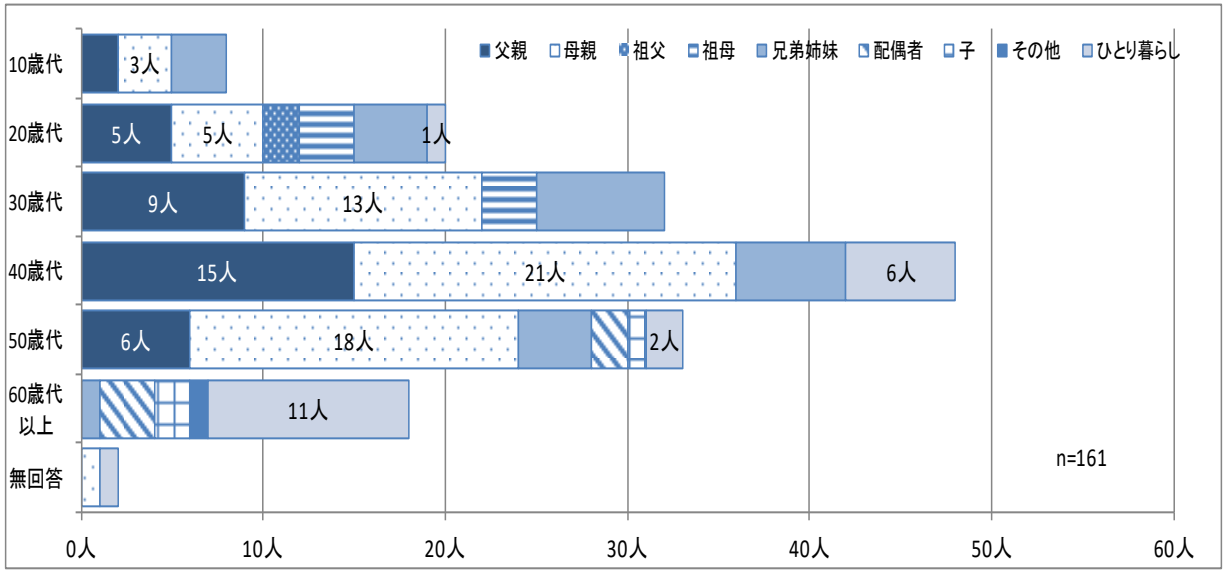


② 年代別

○５０歳代までは、父親、母親との同居が多い。

○６０歳代以上は、ひとり暮らしが最も多い。

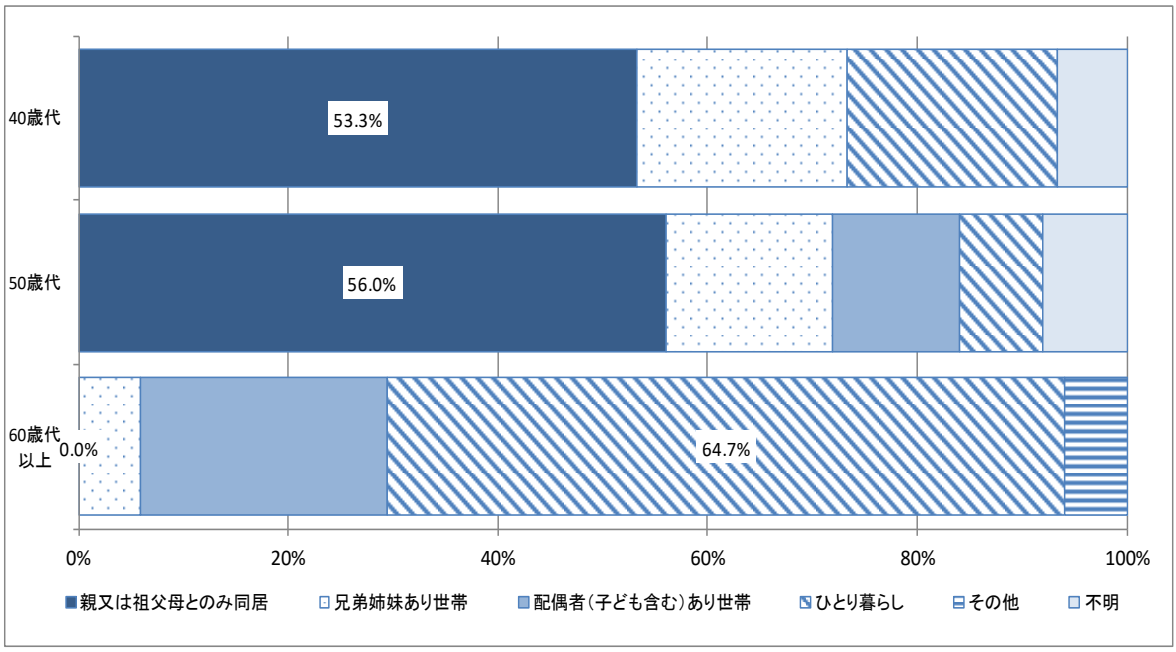
年代	父親	母親	祖父	祖母	兄弟姉妹	配偶者	子	その他	ひとり暮らし
10歳代	2人	3人	0人	0人	3人	0人	0人	0人	0人
20歳代	5人	5人	2人	3人	4人	0人	0人	0人	1人
30歳代	9人	13人	0人	3人	7人	0人	0人	0人	0人
40歳代	15人	21人	0人	0人	6人	0人	0人	0人	6人
50歳代	6人	18人	0人	0人	4人	2人	1人	0人	2人
60歳代	0人	0人	0人	0人	1人	3人	2人	1人	11人
無回答	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人



③　４０歳代以上

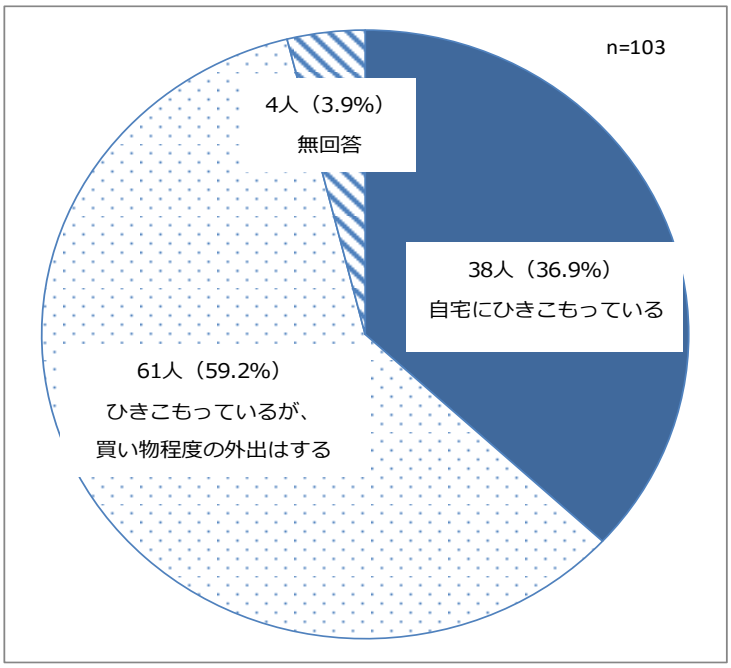
○４０歳代、５０歳代の約半数が「親又は祖父母とのみ同居」しており、当事者の生活を支える親などの高齢化により、社会的に孤立する８０５０問題（７０４０問題）に陥る可能性の高い世帯が相当数あることがうかがわれる。

年代	親又は祖父母とのみ同居	兄弟姉妹あり世帯	配偶者（子ども含む）あり世帯	ひとり暮らし	その他	不明	合計
40歳代	16人	6人	0人	6人	0人	2人	30人
50歳代	14人	4人	3人	2人	0人	2人	25人
60歳代	0人	1人	4人	11人	1人	0人	17人
合計	30人	11人	7人	19人	1人	4人	72人



（５）　該当者の状況

○「自宅にひきこもっている人」が３６．９％、「ひきこもっているが、買い物程度の外出はする」が５９．２％であった。

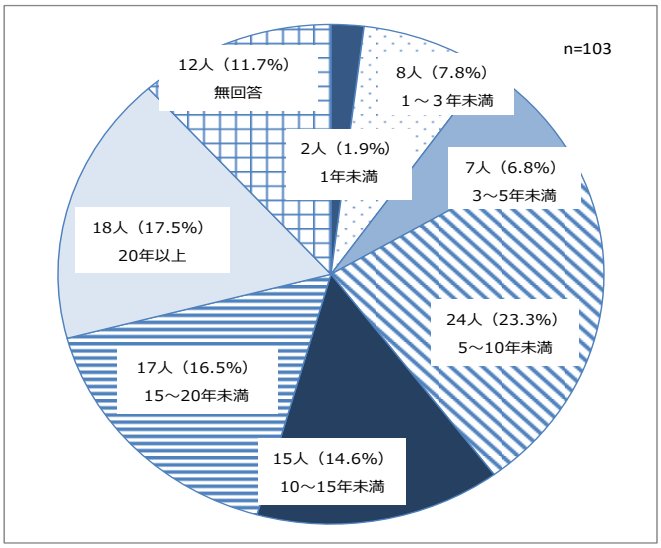


（６） ひきこもりの状態にある期間

① 全体

○ひきこもりの状態にある期間「５～１０年未満」が最も多く２３．３％となっている。

○ひきこもりの状態にある期間「１０年以上」の者が、全体の４８．６％を占めている。

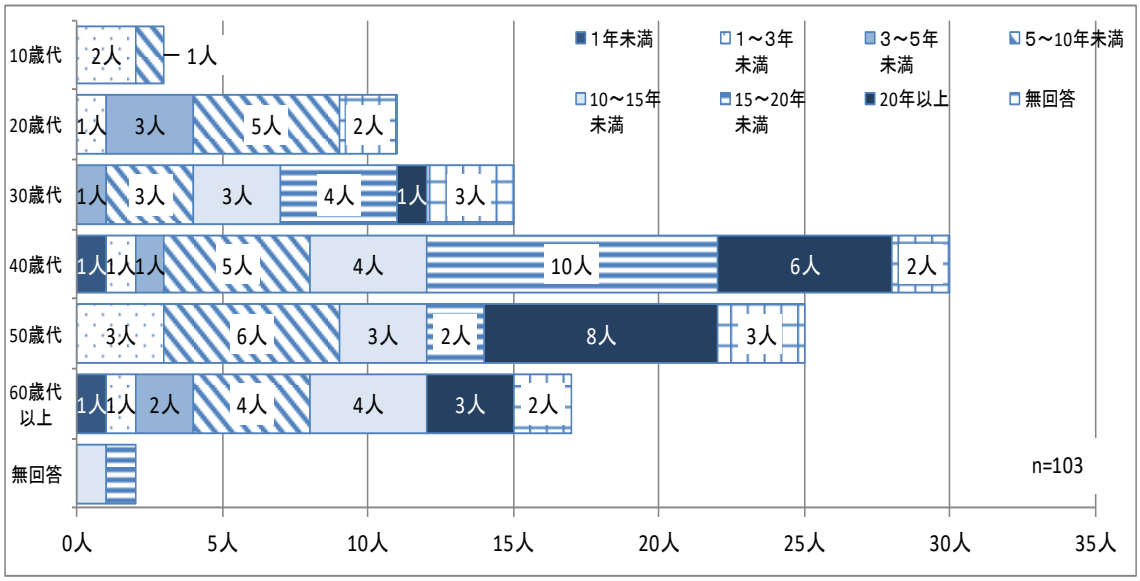


② 年代別

○ひきこもりの状態にある期間を年代別にみると、１０歳代では「１～３年未満」、２０歳代では「５～１０年未満」、３０歳代では「１５～２０年未満」、４０歳代では「１５～２０年未満」、５０歳代では「２０年以上」、６０歳代以上では「５～１０年未満」と「１０～１５年未満」が同数で最も多くなっている。

○２０歳代以降では、５年以上ひきこもりの状態にある者が多い。

年代	1年未満	1~3年未満	3~5年未満	5~10年未満	10~15年未満	15~20年未満	20年以上	無回答	合計
10歳代	0人	2人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	3人
20歳代	0人	1人	3人	5人	0人	0人	0人	2人	11人
30歳代	0人	0人	1人	3人	3人	4人	1人	3人	15人
40歳代	1人	1人	1人	5人	4人	10人	6人	2人	30人
50歳代	0人	3人	0人	6人	3人	2人	8人	3人	25人
60歳代以上	1人	1人	2人	4人	4人	0人	3人	2人	17人
無回答	0人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	2人
合計	2人	8人	7人	24人	15人	17人	18人	12人	103人

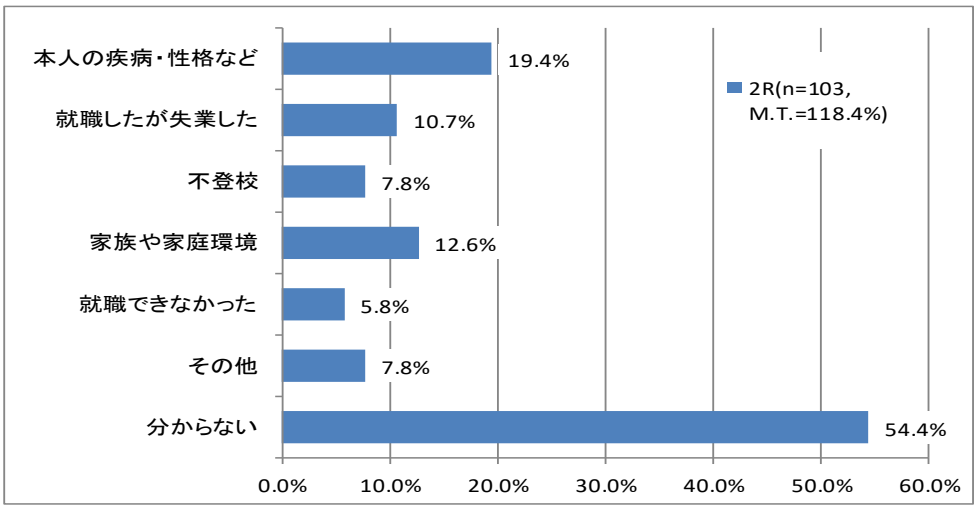


（７） ひきこもりに至った経緯（複数回答）

① 全体

○「分からない」が最も多く、全体の５４．４％（該当者数１０３人に占める割合）を占めており、実態把握の難しさを示していると考えられる。

○続いて、「本人の疾病・性格など」、「家族や家庭環境」、「就職したが失業した」の順となっている。

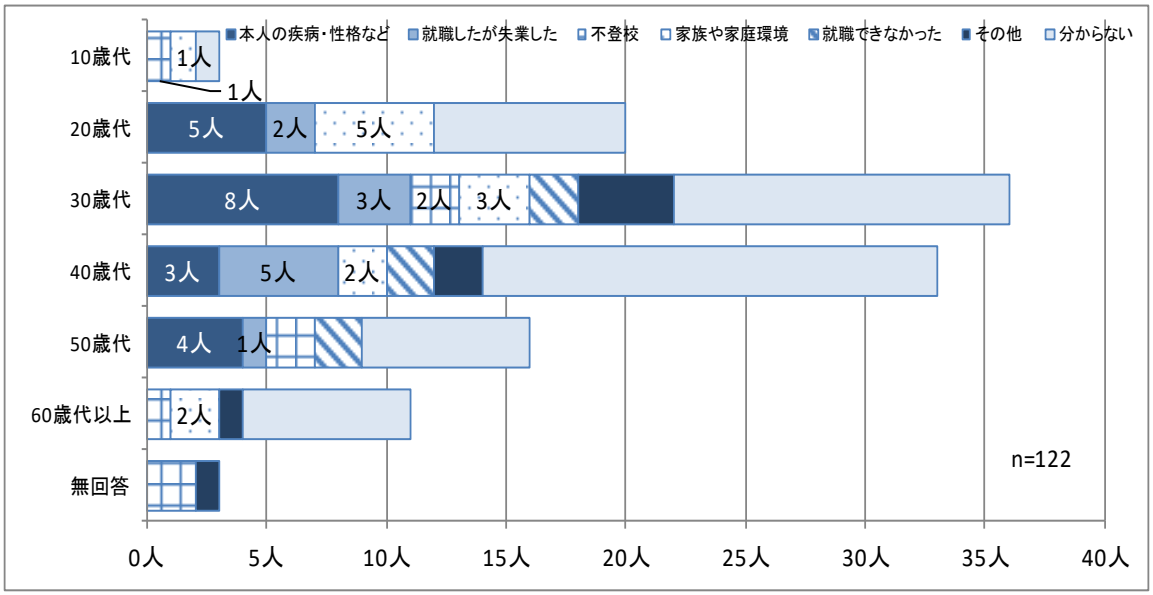


② 年代別

○年代別では、１０歳代では「不登校」、２０歳代では「不登校」及び「家族や家庭環境」、３０歳代以上では、「本人の疾病・性格など」が多かった。特に、６０歳代以上では「本人の疾病・性格など」、「家族や家庭環境」が同数で最も多かった。

○「本人の疾病・性格など」は、５０歳代、６０歳代の順に多く、「失業」は、４０歳代、５０代の順に多かった。

年代	本人の疾病・性格など	就職したが失業した	不登校	家族や家庭環境	就職できなかった	その他	分からない
10歳代	0人	0人	2人	0人	0人	1人	0人
20歳代	0人	0人	1人	2人	0人	1人	7人
30歳代	4人	1人	2人	0人	2人	0人	7人
40歳代	3人	5人	0人	2人	2人	2人	19人
50歳代	8人	3人	2人	3人	2人	4人	14人
60歳代以上	5人	2人	0人	5人	0人	0人	8人
無回答	0人	0人	1人	1人	0人	0人	1人
総計	20人	11人	8人	13人	6人	8人	56人

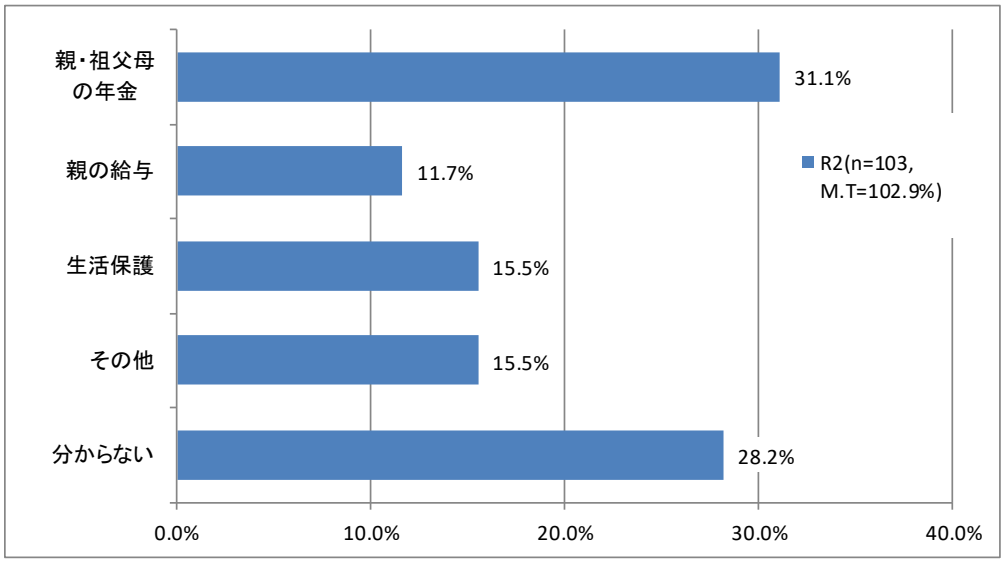


（８） ひきこもり該当者のいる家庭の主な収入状況（複数回答）

① 全体

○「親・祖父母の年金」（３１．１％）が最も多く、次いで、「生活保護」（１５．５％）、の順になっている。

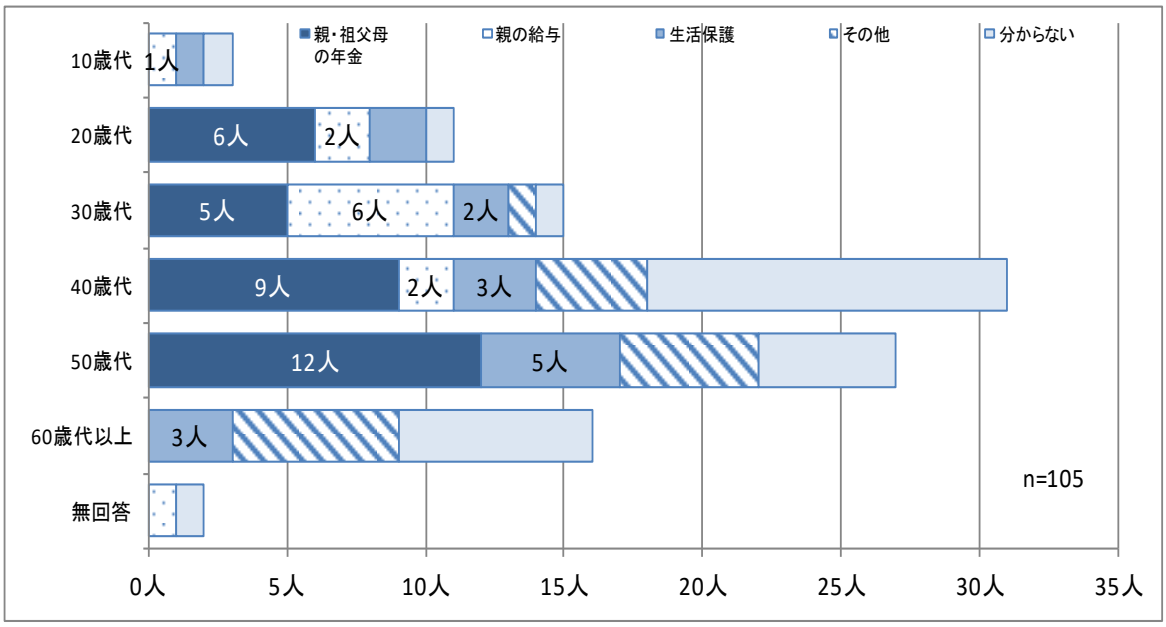
○また、「分からない」との回答も２８．２％と多い。



② 年代別

○４０歳代～５０歳代では、「親・祖父母の年金」が主な収入となっており、当事者の生活を支える親などの高齢化により、社会的に孤立する８０５０問題（７０４０問題）に陥る可能性が高いことがうかがわれる。

年代	親・祖父母の年金	親の給与	生活保護	その他	分からない
10歳代	0人	1人	1人	0人	1人
20歳代	6人	2人	2人	0人	1人
30歳代	5人	6人	2人	1人	1人
40歳代	9人	2人	3人	4人	13人
50歳代	12人	0人	5人	5人	5人
60歳代以上	0人	0人	3人	6人	7人
無回答	0人	1人	0人	0人	1人

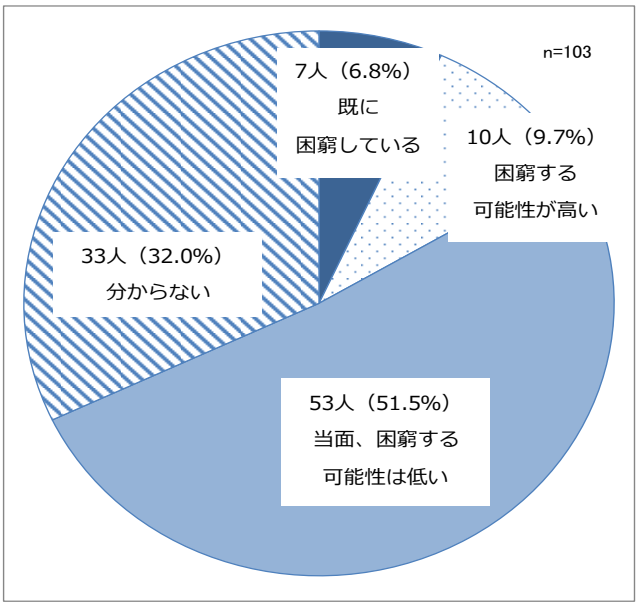


（９）　生活困窮の可能性

①　全体

○「当面、困窮する可能性は低い」が５３人と最も多く全体の５１．５％を占めており、次いで「分からない」が３３人（３２．０％）となっている。

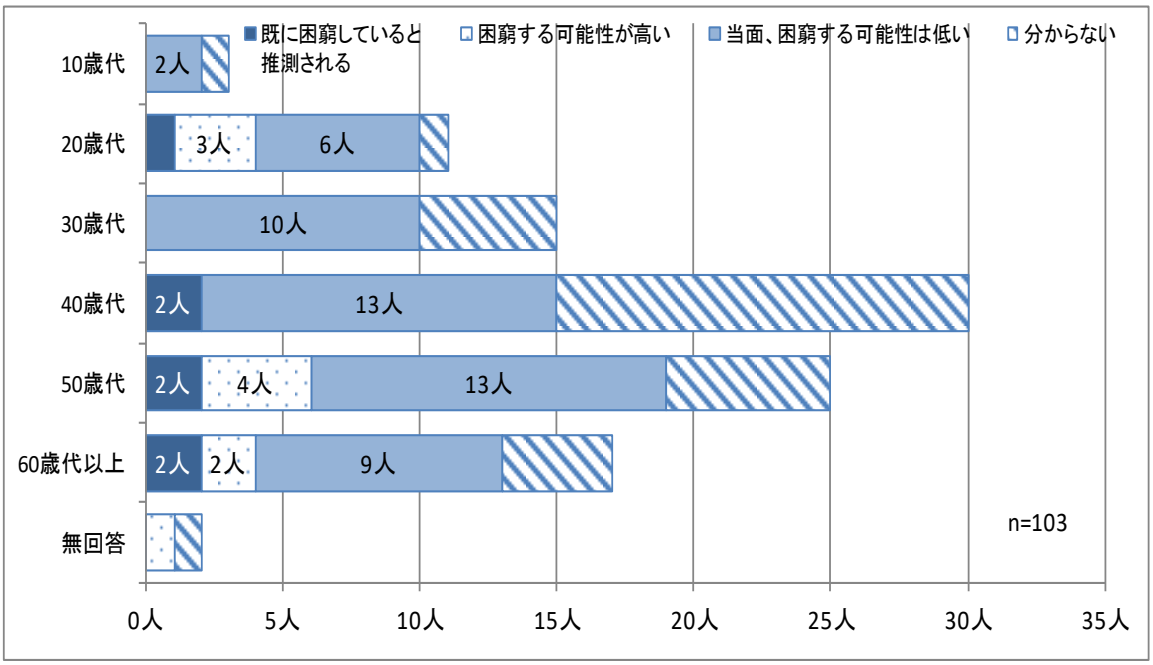
○「困窮する可能性が高い」が１０人（９．７％）、「既に困窮している」が７人（６．８％）となっている。



②　年代別

○年代別に見ると、４０歳代以上では、「既に困窮していると推測される」が６人（８．３％）、「困窮する可能性が高い」が６人（８．３％）となっている。

年代	既に困窮していると推測される	困窮する可能性が高い	当面、困窮する可能性は低い	分からない	合計
10歳代	0人	0人	2人	1人	3人
20歳代	1人	3人	6人	1人	11人
30歳代	0人	0人	10人	5人	15人
40歳代	2人	0人	13人	15人	30人
50歳代	2人	4人	13人	6人	25人
60歳代以上	2人	2人	9人	4人	17人
無回答	0人	1人	0人	1人	2人
総計	7人	10人	53人	33人	103人

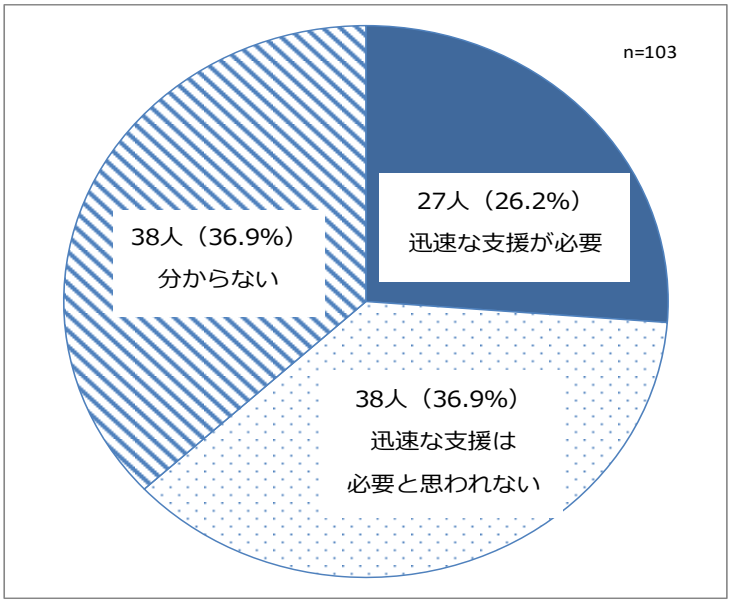


(10)　今後の支援の必要性

①　全体

○「分からない」、「迅速な支援は必要と思われない」が同数で３８人（全体の３６．９％）となっている。

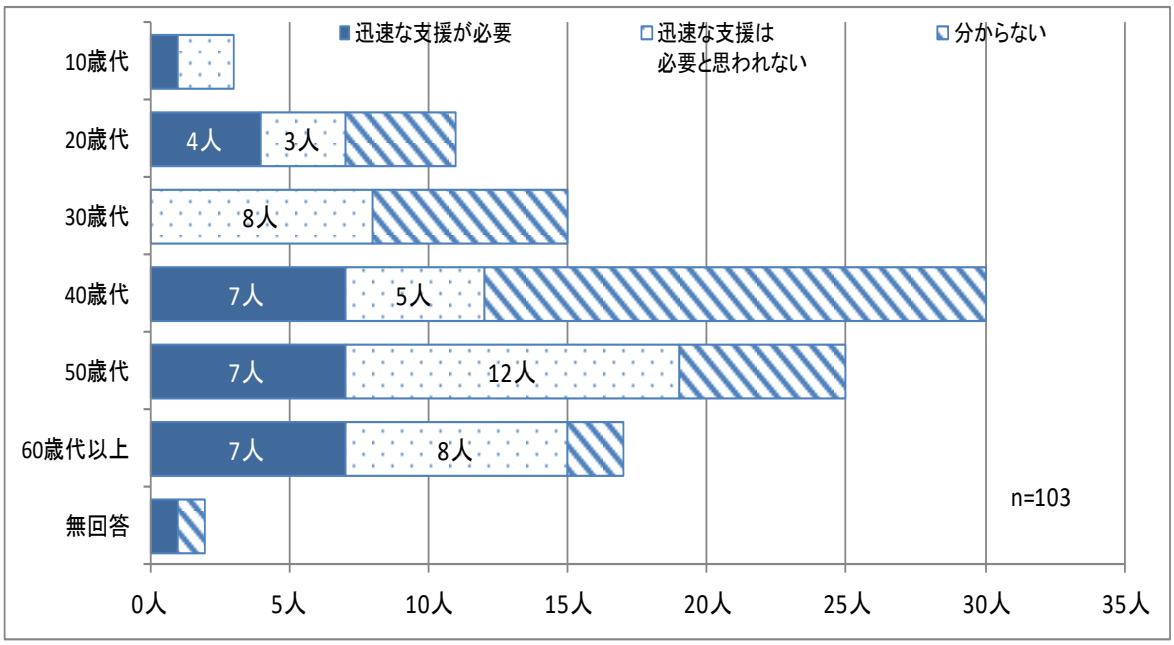
○「迅速な支援が必要」の割合は２７人（全体の２６．２％）となっている。



②　年代別

○「迅速な支援が必要」が２７人。このうち、４０歳代以上が２１人（７７．８％）となっている。

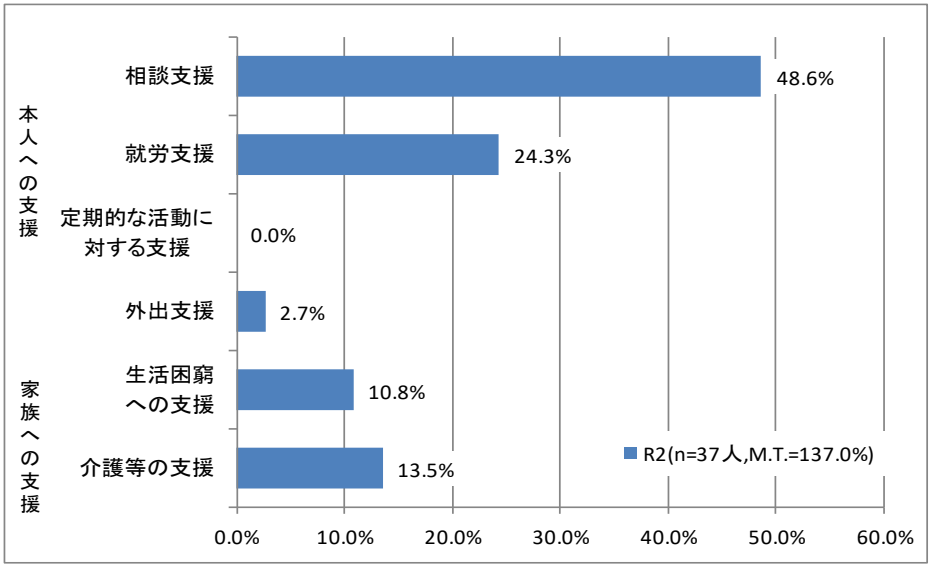
年代	迅速な支援が必要	迅速な支援は必要と思われない	分からない	合計
10歳代	1人	2人	0人	3人
20歳代	4人	3人	4人	11人
30歳代	0人	8人	7人	15人
40歳代	7人	5人	18人	30人
50歳代	7人	12人	6人	25人
60歳代以上	7人	8人	2人	17人
無回答	1人	0人	1人	2人
総計	27人	38人	38人	103人



③　必要な支援の内訳（複数回答）

ア　全体

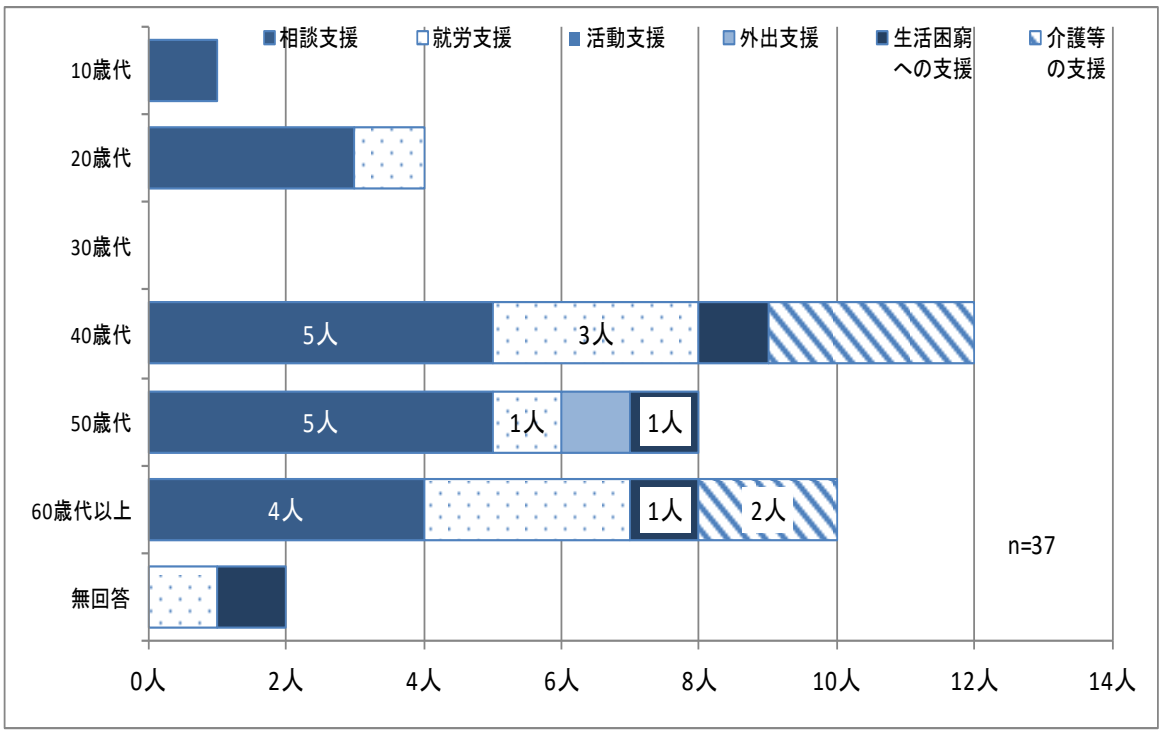
○本人への支援は、「相談支援」が全体の４８．６％を占め、最も多く、次いで、「就労支援」が２４．３％と多かった。



イ　年代別

○４０歳代以上は、本人、家族双方への支援が求められていることがうかがわれる。

年代	本人への支援				家族への支援	
	相談支援	就労支援	活動支援	外出支援	生活困窮への支援	介護等の支援
10歳代	1人	0人	0人	0人	0人	0人
20歳代	3人	1人	0人	0人	0人	0人
30歳代	0人	0人	0人	0人	0人	0人
40歳代	5人	3人	0人	0人	1人	3人
50歳代	5人	1人	0人	1人	1人	0人
60歳代以上	4人	3人	0人	0人	1人	2人
無回答	0人	1人	0人	0人	1人	0人
総計	18人	9人	0人	1人	4人	5人



（11）　自由意見から

【調査の困難さ】

・個人情報の保護や近所づきあいの減少などにより、民生委員でも個人の家への必要以上の介入は困難。アパートについては誰が住んでいるかさえ分からない状況。
・ひきこもっていても家の中で仕事をしているかもしれないし、本人と顔を合わせることがないため情報の正確さも不確か。潜在的なひきこもりの把握は難しい。
・近隣の関わりが希薄なため、詳細情報が把握できない状態。
・平素の活動では対象者の発見は困難とも思われる。

【ひきこもりに対する認識】

・表面化しない事象だけに把握が困難。
・「ひきこもり」という言葉は以前に比べて世の中に認識されているように感じるが、実際としては地域の人々の高齢化により昔のような近所との関わりがなくなりつつあり、本人や家族の方々も高齢となりますます様子が分かりにくくなっていると感じる。
・多様性を理解できる社会であってほしい。つまづいた時は誰でもひきこもることはあると思う。
・コロナ渦でより経済が悪化し８０５０問題はこれから増えていく大きな問題と思う。

【家族の状況】

・窓口に相談しても本人が行政の人とは会ったり話さないだろうと思い相談を躊躇しているようだ。
・高齢の母親が本人のために家事全般を担っており、とても大変な生活になっている方もいる。子どものひきこもり等についても直接民生委員に届かず母親が一人で困っている方も見かける。
・ご家族にとっては、隠し通せるなら隠しておきたい意向があるよう。家庭内暴力が起きないよう見守る現状があることを耳にする。

【今後の希望】

・高齢者のひきこもりが増加すると考えるので、出前講座を希望する。
・家族の相談窓口や家族教室等、簡単に身近にあるといいと思う。